

平成26年度学校評価セミナー
学校評価の実効性の向上と教育行政の役割

2014(平成26)年9月5日

アイーナ(いわて県民情報交流センター)

天笠 茂(千葉大学)

学校評価の形は整ったが、...

○とりあえず整ったということ

○学校評価に取り組んだ第一世代の退場

○実効性のある学校評価

「学校評価の結果が学校改善に役立っている」という実感をそれぞれの関係者がどこまで得られているか。

<実効性について>

それぞれにとって学校改善や教育水準の向上につながっているという有用感

I . 実効性をあげるための方策
<学校内での取り組みの充実>

方策①: 授業改善と学校評価

＜学習評価－カリキュラム評価－学校評価＞

- 授業と学習評価
- 観点別評価と単元

＜本時中心主義＞から＜単元中心主義＞

- 単元を含む年間指導計画への評価
- 年間指導計画をもとにしたカリキュラム評価
- カリキュラム評価をもとにした学校評価

方策②：学校評価の目的の共有

- ①各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ②各学校が、自己評価及び保護者などの学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

（「学校評価ガイドライン[平成22年改訂]」より）

方策③：学校評価をめぐるシステムと運用の工夫

○全教職員の参加

○学校評価事務の簡略化と処理システムの整備

○学校評価を進める組織づくりの工夫

－学校評価における情報の収集や分析、改善案の提示、学校と地域を繋ぐ業務などに事務職員や事務の共同実施組織を活用－

方策④：学校評価をめぐるスケジュールの工夫

○学年末の学校評価

⇒学校評価の改善の結果が生かされない

○学期末、年度の間での学校評価

⇒学校改善のための時間の確保

○学校評価のスケジュール

方策⑤：評価結果の扱いの工夫

- 学校評価結果の公表：保護者や地域の人々にもわかりやすく伝える
- 学校評価をもとにした学校の説明
- 学校の発信力を高める－広報戦略と学校評価一体化－
- 第三者評価における情報の共有－講評を教職員にも聞かせる

教育委員会による支援

- 市町村教育委員会の対応の差
 - ・学校評価に関する統一的な様式や共通項目
 - ・学校評価結果の報告フォーマット
- 学校への支援体制が十分でない
- 学校評価にかかわる人材育成が不十分
 - ・指導主事の育成
 - ・評価結果に基づいた指導助言
- 学校評価結果の報告と教育委員会評価との連動
- 第三者評価への体制が整っていない

Ⅱ．学校評価への教育委員会への 支援

学校評価における教育委員会の役割

1. 各学校における学校評価の円滑な実施に向けての診断と評価
2. 第三者評価についてのシステムの整備
3. 学校評価に関する諸研修の実施
4. 各学校からの学校評価結果の報告をふまえた学校支援

ワーキンググループ「地域とともにある学校づくりと実効性の高い学校評価の推進について」(報告)
(平成24年3月12日)

＜設置者による支援の充実＞

- 設置者の明確な学校教育に関する方針の策定
- 学校評価にかかわる継続的な人材育成と確保等
- 学校評価に関する好事例の普及
- 学校評価にかかわる教育委員会の組織体制の充実
- 学校評価に係る効率化と負担軽減の取組
- 情報提供にかかわるガイドライン等の策定
- 学校評価の実効性を担保する仕組みとしての段三者評価の実施
- 学校評価と教育委員会の自己点検・評価との連動

<ケース>ワーキンググループ(報告)

○教育委員会の明確な教育ビジョンの設定(宮崎県五ヶ瀬町)

教育委員会が「五ヶ瀬で生まれ、育ち、イキ、五ヶ瀬を創造する人づくり」という町全体の目標(五ヶ瀬教育ビジョン)を設定。各学校はそれぞれの重点目標に加えた目標設定や学校評価を実施している。

○設置者による評価の統一様式や年間スケジュールの提示(東京都武蔵村山市)

4月の定例の校長会において、教育委員会から学校評価の意義、方法、統一様式、年間スケジュールを提示する。これにより学校は計画的に学校評価が行えるようになり、設置者においては評価結果の分析や評価結果を踏まえた計画的な支援が行いやすくなる。

○学校評価アドバイザー・スペシャルアドバイザーの学校派遣(新潟県見附市)

大学関係者を各学校に派遣し、学校評価における課題に対して解決策が見出せない場合など、専門的なアドバイスを要する際に活用している。実効性の高い学校評価を進めるにあたって、教育委員会はどのようにあったらよいか、その在り方を探る。

学校評価と教育委員会の自己点検・ 評価との連動

○学校評価と教育委員会の自己点検・評価と
の連動

○ 学校評価結果の教育委員会への報告

○学校評価と教育委員会評価の循環を生み出
す

Ⅲ. 学校評価と人材育成

次の世代へのノウハウやマインドの継承

1. タテへの浸透

- ・副校長、教頭、教務主任への継承をはかる

- ・若い世代を対象にした研修

個々の教職員の自己診断能力を高める
— 学校評価の校内研修 —

2. 学校評価に人材育成の視点を

学校評価に関わる人々の研修

＜すべての関係者に学校評価に関する知識・技法を＞

1. 教職員に対して—管理職中心主義からの転換—
2. 学校関係者などに対して
3. 教職員と学校関係者による研修会の開催
4. 保護者に対して

指導主事への期待 —指導助言能力の向上—

1. 「学校評価ガイドライン」についての習熟
2. 学校評価についての基本的な考え方の探究
3. 学校評価についての技法の習熟
4. 各学校における学校評価の実効性を高める戦略と戦術の構築

IV. 第三者評価について

ガイドラインの考え方

○自己評価－学校関係者評価－第三者評価

⇒学校関係者評価に第三者を加える

○最近の事案

- ・学校・教育委員会の当事者性に対する不信
- ・第三者委員会の設置

○試行事業における第三者評価

第三者評価システムの整備

1. 第三者の目について

- ・検証委員会
- ・学校のマネジメントに生かす

2. 教育委員会と学校に対する第三者の存在

3. 教育委員会として

- ・自ら組織し、実施する
- ・連合して推進母体を組織する

参考文献

- ・天笠 茂『学校経営の戦略と手法』ぎょうせい 2006年
- ・天笠 茂(編集代表)『学校管理職の経営課題』(全5巻) ぎょうせい 2011年
- ・天笠 茂『カリキュラムを基盤にした学校経営』ぎょうせい 2013年